

西部地区地域生活百景活用方法書

<はじめに>

平成20から21年度において選定した「とっとり地域生活百景」のような地域の遺伝子ともいえる貴重な風俗・景観は、身近で日常的あるだけにかえってその価値が見過ごされがちであり、地域資源として意識的に保存・活用されなければ早晩失われてしまうものと懸念されています。このため、今に残る百景の価値を多くの県民に再認識していただき、活動団体、地域住民、事業者及び行政等が連携しながら保存・活用の取組につなげていく必要があります。

そこで、平成22年度において、まちづくり分野、歴史・自然分野の有識者の皆様に東部・中部・西部地区ごとに地域生活百景モデル地区を選定いただいた後、地区ごとに地元代表等の皆様を加えて「地域生活百景活用方策検討会議」を2回開催し、地域生活百景の保存・活用による郷土への誇りを育む方策や地域活性化につなげる方策、取組計画及び実施体制等を御検討いただきました。

本方法書は、その検討結果として、地域生活百景等地域資源の保全・活用によるまちづくりの活動を促進し、地域の活性化につなげていく上で、有効と考えられる事業展開方策等を「アイデア・ヒント集」としてとりまとめたもので、今後、各地域において景観まちづくり活動のあり方を検討する際に活かしていただこうとするものです。

<内容>

1 地域(百景)名

根雨宿のまちなみ

2 目標(目的・課題)

(1) 目標

貴重な根雨宿のまちなみ等地域資源の保全活用と交流人口の増による地域の活性化(仮称)

(2) 現状・課題

おしどりや金持神社の取組のように住民主導・活動団体参加がないと活動は続かない。

3(1)・(3)

生活の場に来すぎると住民に迷惑になる面があり、住民理解を得る必要がある。3(1)古い街なみの散策がおもしろい。仕掛けで根雨のまちに来てもらうようにしていく必要がある。3(2)

古い建造物など貴重な歴史文化的資源が多いが、保全活用の取組がないと徐々に廃れてしまうのではと危惧する。3(3)

ただまちなみを見てもらうだけでなく、ガイドや表示などで案内することによりまちの印象が深まる。食の要素も大事。また、車を止める場所の確保が必要。3(3)・(4)

街中に店が減って人が来ない。根雨のまちにたくさんの方が来て、賑やかなまちになり、商い、お店の活性化につながれば良い。1番館の復活が必要。整備資金等が不足しており、受け入れ体制も整えば、みんなが取り組もうということになる。3(4)・(6)

活動団体間の共通認識と情報共有、ネットワーク化が必要。コーディネータは役場がしてくれたら協力する。3(6)

3 事業展開の方向性（キーワード）

- (1) 住民参加による目標共有と地域資源の発掘・再生
- (2) 根雨のまちに誘導する仕掛けづくり
- (3) 根雨のまちでもてなす景観・メニューづくり
- (4) 拠点施設・店舗等を核とした事業展開
- (5) 根雨のまちをアピールする情報発信
- (6) 活動の情報共有と活動団体のネットワーク化

4 事業例（百景活用方策）の概要

(1) 住民参加による目標共有と地域資源の発掘・再生

事業例：住民・活動団体等のワークショップの場づくり

内容：・より多くの地元の人を巻き込みながら、地域の目標、地域資源(人・もの・自然・歴史文化・建造物などの宝)の再発見・再認識と共通理解を図る。

- ・歴史（縦軸）と地域資源(点)をつなぐ（横軸）ストーリーづくりを行う。
 - ・現況調査の実施：（貸出し可能な）空き店舗活用可能性調査、空き地調査
 - ・マーチャンダイジング（消費者の欲求・要求に合う商品を適切な数量、価格、タイミング等で提供するための商品計画）を検討する。
 - ・ガイド養成のきっかけの場とする。
- （既存店の見直しなど、アドバイザーを入れてまちを元気にする取組を検討）

〔地域資源(例)〕

- ・偉人：浜田朱鳳、田淵行男、木山義喬、平野流、生田長江、長谷部信連など
- ・もの：おしどり、金持神社、天然オオサンショウウオに出逢える(かもしれない)・鯉が泳ぐまち
- ・自然・歴史文化：たたらや出雲街道、民話、伝承芸能を掘り起こして整理
- ・建造物：歴史民俗資料館(国指定)、近藤家、勝瀬家、本陣の門、たたら楽校(できたばかり土日に週10：00～16：00)など

(2) 根雨のまちに誘導する仕掛けづくり

事業例：まちなか・周辺地域のルートづくり

内容：奥大山、蒜山休暇村などの周辺地域との提携、宝仏山、間地峠、明地峠で大山がきれいに見えるビューポイントをつなげる新ルートを発掘やいきいきツーリズムとのタイアップ（オプションツアー）を検討する。

事業例：おもしろマップづくり

内容：金持神社参拝者、おしどり観察をする人にたたら楽校、近藤家への誘導ルートや統一感のある案内看板、駐車場情報、お店の人の顔をこだわり売りが見えるマップづくり。

(3) 根雨のまちでもてなす景観・メニューづくり

事業例：ガイドがもてなす歴史ある建造物などまちなみ散策

内容：ガイド（歴史・おしどり・登山等）養成するとともに、ガイド（利用料1,000円）が案内する街なみ散策コースを設定する。

事業例：地域資源のパッケージ化とイベント実施

内容：根雨宿のまちなみや金持神社、オシドリ観察を結びつけてパッケージ化や根雨まつり、新そばまつり、ウォーキングイベントなどの実施する

事業例：駐車場の確保や看板整備等

内容：役場駐車場の開放などにより駐車場を確保する。また、既存駐車場の案内看板や収容台数などを表示する。

事業例：街なみ環境の整備保全

内容：地域住民の合意形成を図りながら、社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）の活用による街なみの修景事業等の実施を検討する。

(4) 拠点施設・店舗等を核とした事業展開

事業例：拠点施設・既存店舗等の整備活用

内容：・根雨が生んだすごい人を紹介する場所やガイドが集まる拠点づくりを整備する。
・TATARAの舞台である建造物等を観覧できるようにする。

事業例：食店舗の整備

内容：・人気があるたたらそば店の設置や地元の女性の人たちが食を提供するなどの取組みにより1番館復活を検討する。
・根雨名物のアイテム食やB級グルメの開発、町屋カフェの空き店舗活用を検討する。

事業例：若者向け店舗の整備

内容：・歴史ばかりだと年配者のみになってしまう。古い建物を改装して根雨にまつわる小物（オシドリのストラップ）などを若い人向けに販売する店舗の整備を検討する。
・チャレンジショップなど学校卒業後に若者が商売できる場所として空き店舗活用（ルームシェア、店舗シェアの試みを含む）を検討する。

(5) 根雨のまちをアピールする情報発信

事業例：情報発信事業

内容：TATARAの本を県外各事務所へ配布してマスコミにPR、ガイド本の作成やテレビ放映などによる情報発信を行う。また、既存店活性化に向けてブログ等を活用する。

(6) 活動の情報共有と活動団体のネットワーク化

事業例：活動を情報共有できる場づくり

内容：それぞれの活動を情報共有できる場づくりを行う。おしどりの問い合わせが役場に来るのでまちなみガイド、おしどりボランティアも紹介する。

5 取組計画想定案

方向性	事業例	短期的(H23～25年度) に実施を期待するもの	長期的(H26年度以降) に実施を期待するもの
(1)住民参加による 目標共有と地域 資源の発掘・再生	住民・活動団体等の ワークショップの場 づくり	H23:(1)	
(2)根雨のまちに誘 導する仕掛けづ くり	まちなか・周辺地域 のルートづくり		
	おもしろマップづく り		
(3)根雨のまちでも てなす景観・メニ ューづくり	ガイドがもてなす歴 史ある建造物などま ちなみ散策		
	地域資源のパッケー ジ化とイベント実施		
	駐車場の確保や看板 整備等	H23:(1)	
	街なみ環境の整備保 全		
(4)拠点施設・店舗 等を核とした事 業展開	拠点施設・既存店舗 等の整備活用		
	食店舗の整備		
	若者向け店舗の整備		
(5) 根雨のまちを アピールする情 報発信	情報発信事業		
(6)活動の情報共有 と活動団体のネ ットワーク化	活動を情報共有でき る場づくり	H23:(1)	

(1)平成23年度に当面想定する取組(5(1)・(3)・(6)関連)

当面想定する取組として、ワークショップを開催し、住民・活動団体等による現状・課題の共通認識、目標の共有及び推進組織づくり・ネットワーク化を検討するとともに、既存駐車場の看板表示など、実施可能なものからやっていくこととする。

(2)なお、これらの事業を行うにあたっては、まちづくり活動団体が過去に行った活動成果も参考とする。

6 推進体制及び連携組織(想定されるもの)

<景観まちづくりや本方法書等の説明>

「とっとり地域生活百景説明会」を県・該当市町が連携して開催し、広く地域住民や活動団体が会し、景観まちづくりとは何かを共に考え、地域生活百景活用方法書の内容の共通理解を図り、意見交換を行い、今後の取組についてのきっかけづくりの場とする。

<その後>

プロジェクト協議会形式とし、得意分野で役割分担しながら、さらに関係団体等との組織化を進めていく。

日野町はオブザーバー参加(役割分担:広報など)とし、県は必要に応じてアドバイザー(街なみ環境整備等)参加する。

(事業は専門性に照らして、可能な分野で役割分担する。また、「みんなでお話をしてみませんか」という働きかけにより参加者を募っていく。)